

# 397. 特殊ガロア体ノ構成ニ就テ(I)

淡中忠郎(東北大)

「與ヘラレタ基礎体 $K$ ノ上ニ與ヘラレタガロア群 $G$ ヲモツ体ガアルカ」トイフヨク知ラレタ問題ヲ特殊ノ場合ニ考ヘテ見タイト思ヒマス。

Brauer (Crelle Bd. 168 1932) が最初ニコノ問題ヲ Ring ト関係付ケテカラ同ジ種類ノ論文ガ二三出テ居リマスガ、ココテ述マタイノハ最近出タ Witt ノ論文 (Crelle Bd. 174 (1936)) ノ考ヘテ使ツテ次ノ定理ヲ証明スルコトデス。

(定理)  $K$  コ  $e^{\frac{2\pi i}{p}}$  ( $p$  ハ素数) デアレバ $K$  ノ上ニ任意ノ  $p$ -Gruppe  $G$  ヲガロア群トスル体ガアル。」  
勿論 $K$  ハ代数体トシマス。

## § 1. Witt ノ Konstruktion.

説明ノ都合上先ツ上記ノ論文ニアル Witt ノ構成法ヲ述ベル。  
 $G$  ヲ  $p$ -Gruppe,  $G^*$  ヲ  $G/G^*$  ガ  $(p, p, \dots, p)$  ノ型ニナル最小ノ分群トスレバ  $G^* \neq 1$  ノ時ニハ  $G^*$  ト  $G$  ノ Zentrum ト Durchschnit,  $\mathfrak{h} = p$  次ノ群  $\mathfrak{g}$  ガトレル、コノ  $\mathfrak{g}$  ノ単位表現デ  $\Gamma$  Charaktern  $\rho, \sigma, \tau$  ヲツケル。

群  $G$  ヲ  $\mathfrak{g}$  ヲ  $G/\mathfrak{g} = \Gamma$  デ erweitern シタモ、ト考ヘテ  
ソノ拡大ノ條件ヲ何時モノ様ニ

- (1a)  $u_\sigma u_\tau = g_{\sigma, \tau} u_{\sigma\tau}$
- (1b)  $u_\sigma g = g u_\sigma \quad (\rho, \sigma, \tau, \dots \in \Gamma)$
- (1c)  $g_{\sigma, \tau} g_{\rho, \sigma\tau} = g_{\rho, \sigma} g_{\rho\sigma, \tau}$

トスル。我々ハ帰納法ニ依ッテ定理ヲ証明シタイノデアアルカ  
 ラ  $\Gamma$  ヲ群ニモツ体  $K$  ガスデニ出来タトスル。ユノトキモ  
 シ

$$(2) (\chi(g_{\sigma, \tau}), K/k, \Gamma) \sim 1$$

ナラバ

$$\chi(g_{\sigma, \tau}) = \frac{\delta_{\sigma}^{\tau} \delta_{\tau}}{\delta_{\sigma \tau}}$$

$$1 = \chi(g_{\sigma, \tau})^p = \frac{(\delta_{\sigma}^{\tau})^{\tau} \delta_{\tau}^p}{\delta_{\sigma \tau}^p}$$

従ッテ  $\delta_{\sigma}^p = \gamma^{\sigma-1} \quad (\gamma \in K).$

コノ  $\gamma$  ヲ使ッテ  $K(\theta) \quad (\theta = \sqrt[p]{\gamma})$  ヲ作ルト  $K(\theta)/k$  ノ ガロア  
 群ガ  $G = +$  ル。 (証明ハ Witt 参照)

$\gamma$  ハコノ際上ノ *process* カラ得ラレル数デアレバ、ド  
 ノマウチ数デアツテニ差支ヘナイ、従ッテ (2) ノ假定ノ下ニ  
 得ラレル一般ノ  $\gamma$  ノ形ハ

$$(3) \gamma' = \gamma \alpha^p \beta \quad (\alpha \in K, \beta \in k)$$

デアアル。

§ 2. (定理 1)  $G$  ガ與ヘラレタ  $p$ -Gruppe

$$k = R(e^{\frac{2\pi i}{p}})$$

ナラバ  $G$  ノ ガロア 群ニモツ体  $K$  ガアツテ而モ次ノ條件ヲ満  
 足スル。

1.  $k$  ノ *unendliche Primstelle* ハ  $K$  内ニ *verzweigt* シナイ。

2.  $\mathfrak{m}$  *Primideal*  $\mathfrak{o}_{\mathfrak{m}}$  ガ  $K$  内ニ *verzweigt* スレバ

$$\mathfrak{o}_{\mathfrak{m}} \nmid p, \quad \zeta \equiv 1 \pmod{\mathfrak{o}_{\mathfrak{m}}^{(p^2)}} \quad (\text{in } k)$$

$K/k$  = 於ケル  $q$  の 相 對 次 數  $\neq 1$  .」

$$\left( \zeta = e^{\frac{2\pi i}{p}}, f \text{ は 與へられた 自然數} \right)$$

$g$  を §1 で 作 ッ タ ヌ ウ ナ 命 題,  $G_1 = G/g$  と スル。  $G_1$  は  $g$  と 同 じ 性 質 を 持 ッ 群 (principal subgroup と centrum = 共 通 ナ  $p$  次 ノ 群) を  $g_1$  と シテ  $G_2 = G_1/g_1$  と フク。 以 下 同 様 = シテ  $G_{k-1} = G_{k-2}/g_{k-2}$ ,  $G_k = G_{k-1}/g_{k-1}$  を 作 リ  $G_k$  が 始メテ  $(p, p, \dots, p)$  の 型 = ナ ッ タ ト スル。

定 理 1 を  $G$  が  $G_k, G_{k-1}, G_{k-2}, \dots$  の 場 合 = 帰 納 法 = 依 ッ テ 証 明 スル ノ デ ア ル ガ  $G_k$  の ト キ ハ 後 = 述 ベ ル コ ト ト シ, コ ヲ デ ハ  $G_k$  の 時 = ハ ス デ = 出 來 上 ッ タ モ ノ ト スル。

サ ス レ バ 定 理 1 が  $G^* \neq 1$  ナ ル 群 の Faktorgruppe

$\Gamma = G/g =$  就 イ テ 証 明 サ レ タ キ ヲ ト キ =  $G =$  就 イ テ モ 成 立 ス ル コ ト フ 云 ヘ バ 証 明 が 終 了 ヲ ケ デ ア ル。  $\Gamma =$  對 ス ル 体 フ  $K_1$  と スル。

§1 の 様 = シテ 作 ッ タ 環 フ

$$A = (\chi(g_{\sigma, \tau}), K_1/k, \Gamma)$$

ト ス レ バ

$$A \sim 1$$

ハ 次 ノ 様 = シテ ヲ カ ル。

$\alpha)$   $k$  の Primstelle を 一 般 =  $\mathfrak{p}$  と スル ト

$\mathfrak{p} = \mathfrak{p}_\infty$  ナ ラ バ 定 理 1 の 條 件 1 = ヲ ツ テ

$$A_{\mathfrak{p}} \sim 1.$$

$\beta$ )  $\beta$  が  $K_1$  上  $\mathbb{F}$  unverzweigt ならば  $K_1^\beta / k_\beta$  は  
zyklisch である

$$A_\beta \sim (a_{\sigma, \tau}, K_1^\beta / k_\beta, \Gamma_\beta) = B_\beta$$

但し  $\Gamma_\beta$  は Zerlegungsgruppe であり  $a_{\sigma, \tau}$  は  
 $\sigma, \tau \in \Gamma_\beta$  となる  $\chi(g_{\sigma, \tau})$ , subset である  $\Gamma_\beta$ , Erzeugende  
である  $\mathbb{F}$ ,  $B_\beta$  が

$$\begin{aligned} u_S u_T &= a_{S, T} u_{ST} & u_i &= 1 \\ \alpha u_S &= u_S \alpha^S & \alpha &\in K_1^\beta \end{aligned}$$

が定義される  $\mathbb{F} \in \mathbb{N}$  のとき  $\mathbb{F}$  次, 標準型 = 直交。

$$v_F^i = u_F^i \quad (i = 0, 1, \dots, n-1, n = (K_1^\beta : k_\beta))$$

$$v_F^n = a_{F, F} a_{F^2, F} a_{F^3, F} \dots a_{F^{n-1}, F} = \alpha$$

$$B_\beta = (\alpha, K_1^\beta / k_\beta, \mathbb{F})$$

$\alpha$  は unit であるから  $\alpha = N_{K_1^\beta / k_\beta}(\theta)$ ,  $\theta \in K_1^\beta$

$$\therefore A_\beta \sim 1$$

$\gamma$ )  $\beta = \sigma$  が  $K_1$  上  $\mathbb{F}$  分岐するときは条件 2 である  $A_\sigma \sim 1$  が  
出る。即ち先が  $\sigma \neq \beta$  である

$$\text{Verzweigungsgruppe } V_\sigma = 1$$

$K_1 / k = \mathbb{F}$  の Relativgrad 1 である

Zerlegungsgruppe  $\Gamma_\sigma = \text{Trägheitsgruppe } T_\sigma$   
である  $T_\sigma / V_\sigma$  は zyklisch

$$\therefore \Gamma_\sigma \text{ は } \underline{\text{zyklisch}}$$

$\sigma \neq \beta$  である  $f(K_1^\sigma / k_\sigma) = \sigma$ 。定理 1, 中,  $f$  である

充た大 = トツテ置イヌモノト考ヘレバ

$$\zeta \equiv 1 \pmod{f(K_1^{qf}/k_0)}$$

即チ  $\zeta$  は  $K_1^{qf}$  カラノ 数, Naum トナル。

$\therefore$   $f$ ) ト全様 =

$$A_q \sim 1$$

従ツテ環, Naemensatz カラ

$$A \sim 1$$

ガ 結論サレル。

サスレバ §1 デ述ベタ方法デ  $G$  群 = 持ッ体  $K_2 = K_1(\sqrt[p]{\gamma})$  が作レル。コノ  $K_2$  ガ 定理1ノ 条件ヲ 満足シテ居レバ問題ハ 片付イタマケデアルガ一般 = ハソウハユカナイカラ  $\gamma = \text{ハ}$  §1. (3)ノ 形ノ 自由性ノ アルコトヲ 利用シテ適當ナ  $\gamma'$  ヲ トレバ  $K_2' = K_1(\sqrt[p]{\gamma'})$  ガ 条件ヲ 満足スルコトヲ 示シタイ。